



【皆の有益の為神の愛で仕える聖霊の賜物】

今日の聖書の本文:ローマ12章3-8節・コリント第一人への手紙12章3-11節

説教者: 鄭南哲牧師

今週の暗唱聖句:コリント人への手紙第一12章7節

(Rev.Jung nam-chul)

愛するみなさん、先週一週間も主の御守りと平安のうちに過ごすことが出来ましたか。今年の最後の12月中にもいつも主が共におられ、一人一人の安全を見守って下さるよう切にお祈り申し上げます。私たちは主イエスキリストの一つの体であり、それぞれ違いますが、みんな一つ一つの体の中に必要な器官としてつながっている主のものであることを教えられました。ですから、この御言葉通りに信じる人々は先のように話せると思いますので、これからも我々の教会の中でいつもこのような信仰を持ってともに歩んで行けるように切にお祈り申し上げます。

ヴィクトル・セブレリアコフ(Victor Serebriakoff)という人がいました。彼は15才の時、学校の先生から頭の知能検査で73だと間違っ見てしまい、学校を卒業するのが不可能であるほど頭の知能がとて低く悪いから勉強は早めにやめて就職してした方がいいと言われました。その後彼は17年間も自分は頭が悪いバカだと思ひ込み何も出来ない者、何の意味もない人生だと信じ込んで過ごしました。ところが、彼が32才になった年にたまたまある知能(ちのう)検査を通して、自分の知能(IQ)が161ぐらいの天才であることが分かりました。それからヴィクトルはたくさんの本を書き、いろいろな種類の物を発明し、特許(とっきよ)を得たりしながら成功した事業家になりました。そして、IQが148以上じゃなければ会員になれない世界の天才たちの集まりと言われる国際メンサ協会の会長にまで勤める人物になったのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！信仰の生活においても同じです。私たちにもすでに自分の中に聖霊の神から与えられている賜物があるのにもかかわらず、どのぐらい分かって、それを生かし、用いるかによって実際にイエスキリストにある神の祝福と霊的な豊かさを経験し、味わえることができると信じます。

<1. 賜物は何か。>

すると、はたして御霊の賜物というのは何ですか。

コリント人への手紙第一12章1節「さて、兄弟たち。御霊の賜物については、私はあなたがたに知らずにいてほしくありません。」

賜物というのは言葉通りに聖霊の神様から、信じる全ての人々に与えられる神のプレゼントです。

ヤコブの手紙1章17節には、「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。」

本文コリント人への手紙第一12章11節に、「同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」、第一コリント12章7節、エペソ4章12-13も参考して下さい。御霊の賜物は神様がキリストの御体である教会の成長のためにと信じる神の家族共同体のみんな有益の為に、おのおのにそれぞれ与えて下さった霊的な力であることが分かります。ですから、この賜物は御心のままにそれぞれに救われたすべてのクリスチャンたちに与えられています。

自分が個人的にいくら下さい、下さいと求めても主の御心ではなければ与えられません。そして、自分のほしい賜物を勝手に取ることもできません。聖霊の神様からのこの賜物は自分自身と主の教会の信仰の群れがますますキリストに似た姿に成熟させ、御霊の豊かな実を結ばせるために活用するようにあたえられている物であることが分かります。

<2. 聖書の色々な賜物の種類>

実際聖書には神様であられる聖霊様からの色々な賜物について具体的に記録されています。

今日の本文のローマ人への手紙12章6-8節には「予言(説教、聖書をよく理解したり、聖書を学び研究し、よく適用するのを喜ぶ)、仕える(奉仕、持て成し、支える)、教える、勧める、救済(寄付、寛容な行為、分け与える)、指導力(権威、治める、導く)、憐れみ」などの賜物が記されています。

また、第一コリント人への手紙12章8-10節、28節には「知恵、知識、信仰、癒し、奇跡、霊をわきまえる、異言、異言を解き明かす、使徒的賜物、助ける、捧げる、治める、援助、管理の賜物」が描かれています。そして、第一ペテロの手紙4章11節「語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えて下さる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。」には、うまく話せる賜物、仕える賜物が、エペソ人への手紙4章11節「こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。」には伝道者(福音を分かち合える・証しする・伝える)、牧会者(人をかえりみる、御言葉通りに導く、教える、祈る)、それ以外にも独身(第一コリント7:17)、自発的貧困(第一コリント13:3)、殉教(第一コリント13:3)、宣教、伝道(エペソ3:6-8)、もてなし(第一ペテロ4:9)など多くの色々な賜物が書かれています。それ以外にももっと細かくは関連されたたくさんの賜物があるでしょう。

このような聖霊の神様からの賜物をまとめて見ますと、神様の御言葉に関する賜物、人々を立てあげる賜物、神様の愛を表す賜物、神の栄光を現す賜物、霊的力と関連する賜物、教会を支え導く賜物のような賜物であることが分かります。みなさんはどちらの神様からの賜物を頂いていると思いますか。

みなさんが霊的な賜物を知り、見つけ、用いたいと思う方々はまず、心からイエスキリストの恵みと贖いを伝え、キリストを信じる信仰を与えて下さる聖霊の神様が共におられることを信じ、そして、御言葉通りに御霊の賜物があることを信じて、喜んで主の

教会と信仰の家族に仕えたいと愛の望みと願いを持って祈り求める人は、聖霊の賜物が今自身に与えられていることをよく自覚し、常に用い、生かすことが出来るのです。

聖書には神が私たちに与えてくださった賜物の話しが多く出ています。賜物というのは、神が私たちに与えられたギフトであり、プレゼントです。その人に預けたプレゼントという意味します(ローマ12:3~8)。

この言葉を見ると、クリスチャンを与えられた恵みがありますが、それぞれ一人一人に与えられた賜物があると教えている。信徒がすべき働きを悟り、献身しようとするなら、聖霊様が助ける。それが賜物である。

聖書の賜物は、2つの所で教えています。Iコリント12章と、ローマ12章です。

Iコリント12章では、ある意味ではカリスマ的な賜物が言われている。現象(げんしょう)を通して見られるものです。異言を通して見られたり、病をいやしたりということです。

第一コリントの手紙には、カリスマ的な賜物が紹介されているが、ローマ12章には一般的な賜物が紹介されています。

「もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善(じぜん)を行なう人は喜んでそれをしなさい。」

預言というのは、神の言葉を預かって語る人。今で言う説教者や聖書を教えられる人、御言葉を黙想したり、学んだり、御言葉を愛する賜物であります。

奉仕というのは、人に仕えること。もてなすこと。他人の対する温かい心を持っている人。人の必要に手を差し伸べること。これは、教えるという賜物の前に来ているのもとても意味があると思います。(教えるだけではなくまず、仕える、模範を実際に見せ行う者の大切さ)。

教えというのは、教師的な賜物。物事を分かりやすく教えられる賜物。神の御言葉を説明して、それを聞く人の心に当てはめることができる。逆に、分かりやすいことを難しく教える人もいますよね。勧めるというのは、話しを聞いて、その人の心をキリストの方に向けさせる働き。今で言うカウンセラー的なことだとも言えます。

分け与えるのは、人に与えることに喜びを見いだす人。その人が必要としているものを与えて、喜ばれて、本人も嬉しい賜物。

指導するのは、リーダー的なこと。だいたい、指導する人は物事を見たときに、これはあなたが、これはあなたがと。経営的なアプローチができる人ではないかと思う。

慈善は、陰で人を支える。人からは知られなくても陰で支えて満足している。困っている人を助ける。

このような賜物は、カリスマ的な賜物ではなく、私たちの人格から現れる賜物であります。

ですから、Iコリント12章のようにカリスマ的な賜物の説明が、もう一つは、ローマ12章のように人格的な賜物が描かれています。どちらも聖霊の賜物であり、クリスチャン生活の中で現れる場合があります。

<3. 聖霊の賜物の特徴&注意点>

御霊の賜物は、人によってはいくつも重なる場合があるでしょう。今日みなさんにお渡しした自分の賜物を是非チェックして見て下さい。(宿題です~)それでみなさんにどんな賜物を与えられているのかが少しは、分かるようになると思います。

そして、みなさんの自分の賜物を発見、賜物があると分かれば喜びと思いますが、ここで、大切なのは、すべての賜物は、自分のために神が与えてくださいましたが、賜物を使うのは人のために使うことになりますから、実際自分の賜物に間違いなのか確認する方法は、他の人のために仕えることで確かめられます。なので、人のために使わないとその賜物はなくなってしまう。

その意味では聖霊の神によって自分に与えられた賜物ですが、他の人のための賜物。これは神の不思議な恵みではありませんか。神の賜物は、与えれば与えるほど豊かになります。すべての賜物は、お互いに支え合うために与えられたものだからです。

神が私にどういう贈りものをくださったのか。私に与えられたものを見つけ出して、それを使ってどのように他の人を助けることができるのか。ここで、<賜物の特徴3つ>について説明します。

①賜物は信じる誰にでも聖霊の神様から与えられているものです。

②才能と賜物の75%は、関連性を持っているとも見られますが、しかし、必ずしも同じではありません。

例えば、大学での講義はとても長年上手な方でも、聖書勉強の指導はとてもできない人もいます。半面、とても聖書のことは楽しく、面白く、分かりやすく教えられる方々もいます。

③必ず一つだけあるわけではありません。また、変わることもあり、いろんな賜物が少しずつある場合もあります。

<自分の賜物を分かりやすく見つける3つ>

自分の賜物は何なのか。どのように見つけることができるのか。大体分かりやすく3つの方法があります。

①自分でだれからのために仕え、試してみると嬉しくて楽しいこと。

分からないのならば、自分の中で制限せずに、色々な働きに参加し、試してみることです。教えかなと思ったら、子どもや人に聖書の事を教えてみる。隣の人から、あなたの教えは分かりやすいと言われるかも知れません。

でも、もし熱心に教えているのに、聞いている人が分からず、疲れて眠っているのならば、そうではないかもしれない。

自分が、興味のある賜物を実践してみるのも良いでしょう。それが一つの方法。実践してみると、自分の心が楽しいとか、疲れを覚えないうとか、疲れても嬉しくて生きがいを感じたり、感謝したりするとそれがみなさんに与えられている賜物の可能性があると思います。

人を慰めることも賜物です。その賜物がない人は、人を慰めるのはとても緊張したり、疲れることだと思います。人を慰めること

は疲れることですが、自分が好きなタイプならば、慰められるが、自分と違うタイプならば、慰めていても腹が立つかも知れない。しかし、賜物がある人は、自分と違うタイプであっても、変わらずずっとすることができます。

ただ、もしかしたら、自分では気づかない場合もよくあるかも知れません。それが当たり前で、ライフワークになっていて、それが賜物だと気づかない時も多くあります。そういう時には他の人からそのように言われることで気づくことがあります。

その働きをするとき、喜びがある。自然体である。気が楽であるなら、自身に与えられている賜物の一つかも知れません。

②やりながら実りがあるかどうかを確認する

教える賜物がある人は、話しをしたり、メッセージをしたりすると、それを聞いて他人が恵まれたという話しや反応をよく聞くと賜物である可能性が高いと思います。神が助けてくれていると感じたりして、自分の賜物を通して奉仕しているんだけど、**他の人が喜びます。他の人の益となっていることを見る中で賜物を確認することが出来ます。**

ある人は文章を書くことや絵や演奏や歌ったりするのが好きでやりますが、それが他の人が聞いて慰められた、励まされたという話しを聞いたりする場合があります。祈って上げると、慰められたり、励ましの言葉がよく他の人々に励まされる姿を見ます。

③周囲の人々から認められること

実りを見て確認する。その実りの中で、人から認められること。ある姉妹は、精神的に落ち込んでいる人の事を気にかけて、その人に電話をします。こういうことによって、人に仕える。人に仕えることによって、自分が祝福されます。

結局、賜物は、人を支配することではなく、人に仕える為に聖霊の神が与えて下さったものであります！

人に勧める賜物がある人は、ある人が迷っている、決めることができないと、これはこうだよ、こうしたらどうと決めてあげたり、決められるように導くことが賜物です。ある人は、人に仕える賜物を持っておられる。気がつけば、人の必要に目を留めて、そこに手を差し伸べようとしています。ある人はゴスペルの賜物を持っている。話しをきけば、ある方は救われたのも賛美を通して救われている。また、人生のところで賛美を通して信仰が助けられている経験がある人もいます。そして、ゴスペル教室のことを自分のミニストリーとしてしてやっている方もいるでしょう。

このように、みなさん、賜物は、人を支配するのではなく、仕えるものです。仕えることによって、自分の人生が輝きます。

<ここで、御霊の賜物について注意すべき点4つ>

①**他人と比較しないように注意**賜物には、優劣(ゆうれつ)なことはありません。一番優れた賜物は一つのみ:愛(第一コリント13章)です。聖霊の神様が人それぞれに応じて相応しく与えて下さるので、みんな賜物の多様性と違さをいつも認めなければなりません。

②**自己合理化しないように注意**例え、自分は祈りの賜物がないから祈らないとか、伝道の賜物がないから、福音を人に証したり、分かち合いたくないなど無関心になることは、賜物を悪用し、クリスチャンとしての愛と責任を回避するための自己合理化にすぎません。これはとても注意し、警戒すべきところであります。

③**御霊の賜物を乱用しないように注意**自己誇示(こじ)、つまり、わざと他の人に見せるために、認められる手段として使わないように気をつける必要があります。それは、神の賜物を、個人化にさせてしまうことです。もちろん、賜物は個人に与えられますが、それは、主の教会や信仰の家族のため、他の人のために与えられたものであることを忘れてはいけません。

④**錯覚と混沌しないように注意**

神の賜物は信じるだれにも与えられているものです。しかし、特別な賜物が与えられたとして、衝動的に牧師になろうと決めたり、受けてもない賜物を持っているかのようなふりをしてはいけません。それは、聖霊の神をだまそうとすることになるからです。

<4. 我々に御霊の賜物が与えられている目的>

それではなぜ、神様はこのようにキリストを信じる全ての人々に賜物を与えて下さるのでしょうか。何のためなのでしょう。どうして聖霊の神様は、その神の賜物を与え、積極的に生かすのを望んでおられるのでしょうか。

もっと詳しく神様がクリスチャンたちに賜物を分け与えてくださる大切な理由を今日の本文は明確に教えて下さっています。

一コリント12章7節に、「**皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現われが与えられているのです。**」

エペソ人への手紙4章12節にはこう書かれています。「それは、**聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。**」と書かれています。また続きの16節には神様の賜物が、「**キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになりため**」であると教えて下さっています。

御言葉通りに神様が私たちに神の賜物を与えて下さったのは、単なる自分だけの有益のためではありません。**神の賜物を与えて下さった目的はキリストの体である教会の中で、キリストを信じる信仰の家族の為、その賜物を用いて、お互い愛のうちに仕え合いながらさらに建てられて行くため**であります。そして、**神の家族をさらに一つにさせ、一人一人がキリストに似た者とならせ、霊的に豊かな実を結ばせ、愛のうちに成熟したクリスチャンとならせるみんなの有益のため**であることが分かります。ですから**主の教会の中でみんなが神の賜物を用いる時こそ、教会全体の一致と調和、そして共にさらなる成長をもたらすための原動力となることを共に覚えておきましょう。**

今日、意外とある教会はあんまりにも聖霊様の賜物について沈黙するか、否定的に考えてしまう教会もあります。なぜでしょうか。神様から頂いた賜物を間違った目的のため使ってしまう、教会の中でいろいろな問題を起こしたり、分裂させてしまう時がある

からです。一番多い間違った神の賜物を用いるやり方は教会の中で自分を現すために使おうとしたり、賜物を比べたりする時です。

ペテロの手紙第一4章10節では、「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」教えて下さっています。神様がある人には一つの賜物を、ある人には二つの賜物を、ある人には5つ以上のような賜物をそれぞれの能力と必要に応じて預けて下さいました。ペテロの手紙第一4章10節では私たちが**良い管理者**として使えなければならないことを教えて下さっています。

、聖霊の神様から自分に預けられている賜物を他の人と比べながら、自分がもっと良い賜物なのか、優れた賜物なのか、どのぐらい多く与えられているのかが大切ではなく、今自身に与えられている賜物を感謝し、神様が喜ばれるためにそれを忠実に使い、用いる時こそ、大切であることを神様からの賜物を預けられた良い管理者として我々が持つべき信仰と姿勢ではないでしょうか。使徒ペテロは神様のさまざまな恵みの良い管理者として、今日も神の賜物を用いて互いに仕え合うように勧めて下さったことを心に刻んで置きましょう。

<5. 聖霊の賜物の有益と大切さ>

過去中世時代のヨーロッパのローマカトリック教会では聖霊の賜物はただ、教皇か、聖職者だけに特別に与えられたものとして、制限させていました。それで、一般の信徒たちには聖書でさえも持たないようにさせた時期がありました。教会の中にも聖徒たちが御霊の賜物について関心を持って学ぼうとしたり、それを主の教会の為、兄弟姉妹たちの為に活用することに、まるで聖職者に反抗してしまうのではないかと敏感に反応してしまったり、教会の秩序を乱(みだ)してしまうのではないかと不安に思ってしまう教会の中でわざわざこの御霊の賜物に関する聖書の教えを一切教えようとしなかったのです。

残念ながら、今日も、そのぐらいではないですが、その時のように、ひたすら牧会者だけにまるで全ての神の大切な賜物が全部与えられているかのように思い込んでしまっているところが、牧会者だけが教会のほとんど全部をやらなければならないと、自分たちは何も出来ないかのように牧師に頼りすぎて、教会の信徒たちは受身的な信仰の生活をしてしまっている教会の姿がまだまだ見られます。

しかし、わたくしは聖書が教えている教会、神の家族の姿では決してないと信じております！

聖書を通して聖霊神様を正しく知り、聖書の教えをちゃんと学んで見れば、却って前の話の教会の姿と正反対の姿であることが分かります。エルサエルの教会やローマにいた教会、コリントやエペソにいた教会など、イエスキリストが本来望み、描いた初代教会の姿は、使徒たちは、御言葉を教え、伝えたり、祈りに専念するだけで、実際、主の教会を建て上げ、支え、神の愛の溢れる信仰の家族の愛の共同体として、さらに家々で広がる神の御業は、それぞれに聖霊の神の賜物を持って献身し、仕えて下さったキリストを信じた信徒たちを通してなされたのではありませんか。

まさに、エペソ人への手紙4章12節の御言葉通りでした。「それは、**聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。**」

イエスキリストを主として受け入れて救われた聖徒たちにはだれにでも御霊の賜物が与えられています。その賜物を正しく生かし、活用する時こそ、豊かな実りあるクリスチャンの生活、本来の聖書通りの健全な、元気な教会として建てられ、成長して生けることを聖書では確実に約束されています。ですから、聖霊の賜物は主の教会の中で、キリストの愛の豊かな共同体として建てられて行く為、原動力となる欠かせないところであるのに間違いありません。

何よりもまずは、聖霊の賜物を生かせば、自分自身に豊かな有益と変化が伴われます(エペソ4:24)。神様からそれぞれに与えられている賜物を活用すると、さらに神様の御体に属されている、主につながっている所属感を持つようになり、神様の賜物を用いれば、霊的にも自分が主にあって大切であることを感じられます。そして、みなさんに与えられている聖霊の賜物は自分に与えられている具体的な使命を見つかり(ローマ12:1-2)、神様に対する愛が深まるのみならず、回りの人の為に喜んで神の愛と関心を持って仕え、支え、奉仕することが喜んで出来るようになります。

毎週一度、教会堂にただ足を運ぶ生活から、日々聖霊の神様と共に歩み、主の教会と他の兄弟姉妹たちとさらに強くつながり、キリスト愛を持って喜んで奉仕をする生活に変えられます。

ですから、聖霊の賜物は主の教会や他の信仰の家族みんなにとって大きな有益となります。(エペソ4:16)

神から与えられているみんなの賜物を生かされれば、主の教会はかならず生き生きと成長して行きます。積極的に受けた神の愛と恵みを分かち合い、分け与える教会と共同体となります。ですから、主の教会全体が強められ、自然に教会に与えている教会の使命と責任、奉仕を十分に果たすことができるようになります。

ですから、聖霊の賜物を聖書を通して正しく理解し、生かせれば、個人や教会の全家族には大きな有益となり、いつも神の御名が崇められ、神に栄光を帰す教会、クリスチャンの生活となるでしょう。

イギリスの有名な先生であったスポ-ルジョン先生(C.H.Spurgeon)はこのようにクリスチャンたちに神の賜物についてこう勧めました。「もしあなたに神の賜物があるなら、できるだけそれを用いなさい。保管しようとも、惜しいとも考えないで、まるで百万長者が破産しようと覚悟したように惜しまずに使い分け与えなさい。神の賜物は兄弟姉妹の為、使えば使うほど、分け与えれば分け与えるほどさらに豊かになるようにさせる神のものです。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんには、聖霊の神様からどんな賜物が与えられているのかご存じでしょうか。みなさんの賜物をちゃんと知り、教会の中で、牧場の中でそれをちゃんと用いているでしょうか。

<6. 聖霊様が導き、聖霊の賜物によって仕える主の教会>

今日の礼拝でアドベント2週目の礼拝を捧げています。神の御子イエスキリストをみなさんの救い主として受け入れているみなさん！主の教会は神の恵みの共同体でありながら、御霊の神からの賜物によって働く霊的な賜物の共同体でもあります。主の教会の各器官であるみなさんには、すでに御霊の賜物が与えられている事を信じて下さい。自分に賜物が何かをみなさんはよく知っていてそれを調和と秩序に従って、それを他の兄弟姉妹の為、使う時、神の愛はさらに豊かに満ち溢れるところと変わります。

エドガウイという牧師はこう言いました。“多くのクリスチャンたちは一タラントとだけいただいたという事実のため無気力となり、失敗するのではなく、一タラントでも使わなかったため無気力となり、失敗するのである。”と。

多くの人々が与えられている自分の賜物を生かして仕えることをしない、出来ない理由の中の一つは、自分が使えるのにあまり役に立たない、至らないと感じ、賜物を生かすべきところを目前にしても、身を引いてしまうのではありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！勘違いしてはいけません。教会の中で、信仰の家族の中で、頭の優秀で、高い学歴を持って人だけが、お金をたくさん持っている人がとか、広い家を持っていつでも人を招き、持て成しが出来る人たちが、時間の余裕や暇な人たちが、神に大いに用いられる資格があり、自分の力と賜物は小さくて、他の人の為に用いられることも、仕えることも、出来ないと思うというような嘘に絶対だまされしないで下さいね。

聖霊の賜物を生かすのに、世の中で、どんな立場なのか、出世した人なのか、有名な人なのか一切関係ありません！

神様は自分に与えられている神の賜物を大切に、それを主の教会の為、兄弟姉妹のため仕えようとする忠実な者を大いに用いて下さいます。

ある教会は奉仕者になるためには“エリート・最高・最上”という物を偶像にしまい、このような誤った考えを教会の中に奨励(しょうれい)しているために、普通のタラントを持っている教会の家族が自由に奉仕しようとするにあとじさりさせ、尻(しり)ごみさせ、ためらわせてしまうため、教会の中で奉仕者がほとんど少ない教会もあります。

「上手にできないのなら、しないでおう、やめておう」というように思ったことはありませんか。

愛するみなさん、聖書どこを読んで見ても、実際イエス様はそのような言葉は一度もそう言われなかったのです。

初めからどんなことでも上手にはできません。かえって失敗や不足(ふそく)を通して学ばされ、みんな成長していくのではありませんか。

私たちの教会はある教会のように少数のエリートによって運営されるところではなく、一タラントでも普通の人たちが主の教会のため、ともに喜んで仕え参加する教会となることを切に願ひ祈ります。

愛するみなさん、今みなさんに与えられている御霊の賜物は私たちの教会にとって一番必要な賜物であって、一番大切な賜物です！私自身は牧会者として与えられた賜物を謙遜にいかし、さらにみなさんがふさわしく整えられ、聖霊の神から与えられている各自の賜物を十分に生かし、みんなの為、仕え用いる事が出来るように、さらに仕えて行きたいと願っております。

クリスチャンプレイズチャーチの全家族みな、それぞれ与えられている賜物に応じて主イエスキリストのため、主の教会のため、兄弟姉妹のため喜んで使えられる教会となるように切にお祈り申し上げます。

私は将来私たちの教会からもたくさんの賜物と才能じゃなくても、ただ自分に与えられている神様からの賜物を忠実に生かしたのにその結果、素晴らしい、信徒リーダーたちがたくさん起こされることを信じて祈っております。教会の中で、日本のため、世界のため、よく祈る祈りの模範になれる人も出てほしいです。一生涯多くの人々をイエスキリストの救いへ導いた牧者、伝道者も出て欲しいです。小さな命を大事にする子供たちに主の言葉で教え、育てて下さる尊敬できるCS教師も、色々心の中で悩んでいる人々の為、献身的に彼らを憐れみ、ケアすることができる素晴らしいクリスチャンカウンセラーの人も、賛美で人の心を癒す人も、一生主の御言葉を深く黙想した御言葉の人も我々の教会から出られますように祈ります。

我々の教会を越えて、日本の社会の中で、世界の中でよい影響を及ぼす三浦綾子さんのようなクリスチャン作家も、アブラハムリンカン大統領見たいな真実なクリスチャン政治家も、献身的なシュバイチャ博士見たいに、貧しい人たちのために主の愛を持って惜しみなく与えるクリスチャン医者も、貧しい人々のため助けの手になれるクリスチャン事業家やボランティア活動家も、クリスチャン運動選手も、クリスチャン音楽家などのような神様から与えられた賜物や才能を、神と人の為、仕え、多くの人たちに神の栄光と愛を現すキリストの本物の弟子たちが我々の教会を通してたくさんおこされる教会となることをわたくしは夢見ており、祈り続けます。

我々の一人一人と教会が聖霊によって豊かに祝福され、さらに豊かに用いられるように共に祈って仕えて行きましょう。

私たち一人一人が本当のこの聖霊の人、イエスの人となり、我々の教会が聖霊様により力強く導く主の教会となるように祈って下さい。聖霊様を通して、情熱の教会となるように(Passion)、聖霊の知恵がみんなに注がれ、罪と妥協せず、時代を正しく判断し、よく見極めて行く純潔な主の教会となるように(Purity)、聖霊の神の導きによって、祈りの力と答えを常に体験する教会となるように(Prayer)、御霊によって御力と賜物が強く現れ、豊かな実りある教会となるように(Power)、それにもかかわらず、互いに心からの謙遜と愛を持って惜しみなく熱心に仕え合う教会となるように(Spiritual Poor)祈って行きたいと願います。

聖霊の神の満たしと労いが皆さん一人一人うちにいつも豊かに覆われ、一層キリストの愛の器として尊く用いられ、神の栄光表し、主の教会を共に建て上げて行くクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように、主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！

*コリント人への手紙第一12章31節:

「あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。私は今、はるかにまさる道を示しましょう。」 アーメン！